雨れゝるもそめくにの
うみきんしまらわくれ
いつまえのまつれとおもへとまたく
まのまつゝほとゝつゝゑめひしき
まちうともいつまて月には
いつわすれはいひなれて
月のく秋まもふゝなるそのは
ころつゝきえんよいゝくがくよなる
正月やまちうゝそらのけしき

寂蓮法師西歌こゝろそ 琴山

清正集

よめる
　　　　みつね
あきはきのふるえにさける花みれは
もとの心はわすれさりけり
題しらす　　よみ人しらす
あきはきの下葉いろつくいまよりや
ひとりある人のいねかてにする
なきわたるかりの涙やおちつらん

く

爲家卿　おもてそまれ

琴山

古今集　北野切

かへるのやまにてはへりし

かへし

きみをのみいつはたとおもふこしなれは

ゆききのみちははるけからしを

秋たひまかりける人にぬさともみちの

えたにつけてつかはしける

あきふかくたひゆく人のたむけには

もみちにまさるぬさなかりけり

わきこのりをつさるま

6

源親子　護良親王及び姚子内親王ノ生母
権大納言師親ノ女　民部卿三位と称す

民部卿局　かへるのやとハ　琴山

後撰集　第十九　離別　羇旅

おもひに侍りける人をとふらひにま
かりてよめる
忠岑
すみそめの君かたもとは雲なれや
たえす涙の雨とのみふる
女のおやのおもひにて山てらに侍
りけるをある人のとふらひつかはせり
けれは返しによめる
讀人しらす

津守氏壽暁法師　たとへには [illegible]

琴山

七月七日

ふる[illegible]まねて[illegible]

あま[illegible]の[illegible]

[illegible]の[illegible]つ[illegible]きえてこのあまのかは[illegible]とてかきつゝ

[illegible]のかみしも[illegible]わかれし

[illegible]とも

月わたし

七夕のあまの[illegible]のそらも[illegible]のくものとまや[illegible]

飛鳥井殿栄雅　七月七日

天光尒時東方五百万億諸國土中梵天宮
殿光明照曜倍於常明諸梵天王各作是念
今者宮殿光明昔所未有以何因緣而現此

宣房

万里小路殿宣房卿 天光尓時

琴山

寄書恋

藤原秀茂

ほのかすもくへとてあれしつはなひ半
かりそけゐこひぬもある

和哥所法印堯孝　ほのつまと

堯孝法印　ほのつまと

詞しかよの詠歌の方に頌すかこゝ異あるらし

定家卿にハ卜作り

さきの昔おほきおほいまうちきみときゝ申ならハし侍る

忠仁公藤良房公ハ染殿后の父清和天皇の外祖父

天安元年二月十九日任太政大臣りハ太政大臣にて

其年四月おほ多しき二年清和天皇九歳にて位に

つきたまふ時摂政し給ひて貞観十四年九

月二日薨去年又めし白川太政大臣とも又染殿乃

申ゝハゝし忠仁公ハおくり名也

四仕𣪕季春得　訒記

四仕九　庚壺

よしみねのむねさた

わひ人のすむへきやとゝみるなへになけきくはゝることのねそす
るときしさりけりみちしならの京にておはしまし
はよめる

二条　源いたるの朝臣女

人あつまりてうたとひてうたならのかたにこそあら
きたり

仁和寺御室家

弘融

わひ人の

正三位季経
みやきのゝかせをまけてりおやまの下露乃[illegible]
[illegible]のとのことゝ言葉つゝまし[illegible]
むべそ　[illegible]藤

たかまとの野への萩はきちるらねさふぬとゝ露[illegible]
萩乃音のまゝ　素覚法師
霧[illegible]ゝの[illegible]のちらわさふそへし[illegible]の袖にぬるゝ
前右大臣
打る袖をみたうるふ白露乃むすひし[illegible]の[illegible]

西南院覚家僧正二條家為定卿子息
みやきの
琴山

清原深養父

夏の夜はまたよひ
なから明ぬるをく
もの いつこに月や
とるらむ

持明院殿基時卿
夜乃花ハ
琴山

基時卿香

新續古今和歌集巻第三

夏哥

更衣の心をよませ給うける
後小松院御製

をしみし春のなこりの衣はきにしよそにしるき衣かへの香はのこる袂

百首哥めされし時
今上御製

きのふよりはやぬきかへて立かへて花の色もまさる夏衣哉

首夏風といふ事を
成恩寺関白前左大臣

なつ衣きせてもいとはん花の色のこすきはまし

題しらす
前中納言宗重

夏衣かへしもはてぬ袖も猶花の香あかすのこるなりけり

中納言為藤卿家にて五首哥よみ侍ける時首夏
といふ事を
頓阿法師

きのふ見しとしうつりとはいはぬ雲はつれなくてみねの梢と

家にて三十首哥よみ侍
けるに山新樹といふ事を
右大臣

綾小路殿俊量卿しよしけり

権僧正永縁

あき萩をゝらてはすきしつきくさの
はなすりころも露にぬるとも

守覚法親王家五十首歌よませ
侍りける　　顕昭法師

はきかはなまそてにかけてたかまとの
をのへのみやにひれふるやたれ

題しらす　　祐子内親王家紀伊

をく露もしつこゝろなくあきかせに

二條家爲右

二條家爲右朝臣　あき萩哉

琴山

室町末

みすく経のみすゝたりまうす
うけまいらすめてくや月はまさらん
秋のきうていたましいをはりし
夕暮に寺に極一てや浪は辺
うのみとめ浅枝りうさう
舟またかなりと蓬に山継く
そう花いゐての風をよるゑ
松よめる鶴やもしのことまゝる

曼殊院殿慈運　又きく

二郎

侍従といふ若女火桶を袖
くゝゐて先ニてふ給はさ
心よ毎てく也合帷光とこら
あれことの一年時源氏の御
すよ鶏てもも我そそこあ[illegible]
も挟くみなりさいら車の
ゑとしん給へしら巻
の君と[illegible]菩生といふとえ山
のとこめて変は付めら明なり

賀茂詮平（仮名と）

一

あとおほえて

うちしくもきぬなすゑせむとまれ

まよひあめあけくれのそら

やまのふもとなかそとくたはまこおすゝぬ

あまそまほしいとたかんとのこゑかつしとて

なつくしけらなれといま一かはるまし

さまへにされわかさおなこはあれそまする

くちのはなもりとさはほかりけて

まとあまくにゆそかはにしそかまひし

よみちさえのかみをさぬきかた見

つりよとゆめのうつかたくさかまて

又まくれをはなれ杉のおくれかな

かうちをまことよみかはゆめるやと

まほうつにつかなくものとわなり

東素彌　ちやとおほえて

佛言善現如汝所説若菩薩摩訶薩為無忘失法盡故學是學一切智智不為恒住捨性盡故學是學一切智智不若菩薩摩訶薩為無忘失法離故學是學一切智智不為恒住捨性離故學是學一切智智不若菩薩摩訶薩為無忘失法滅故學是學一切智智不為恒住捨性滅故學是學一切智智不若菩薩

慈恵大師

[illegible]

時若不得色亦不得受想行識乃至亦不得
一切智智者云何能圓滿布施波羅蜜多乃
至般若波羅蜜多若不能圓滿布施波羅蜜
多乃至般若波羅蜜多云何能入菩薩正性

御返報

他常安住真如乃至不思議界自常安住苦
集滅道聖諦亦勸他常安住苦集滅道聖諦
自常修行八解脫乃至十遍處亦勸他常修
行八解脫乃至十遍處自常修行諸菩薩地
亦勸他常修行諸菩薩地自常修行陁羅尼

智證大師

さゝつまゐみてゝぬきたゝや
くえ
夜は數ひくきつのれ
ミとのき陽つ
なかれも

名作　大色紙

觸界乃至身觸爲緣所生諸受求所以者何
若身界若觸界乃至身觸爲緣所生諸受若
離身界若離觸界乃至身觸爲緣所生諸受
若菩薩摩訶薩若般若波羅蜜多若求如是
一切皆非相應非不相應非有色非无色非

聖寶僧正

説

隨逐く（以諸所習義也）發起く（復以發身皆識善也）第一義く（真如也）生得く（名）

（宿善家習生得即起不假思惟）方便く（親近善友[illegible]方便起）現前供養く（對三寶興供養等）

饒益く（以四攝饒益有情）引攝く（以施等福引攝生天示其勢等）對治く（厭壞對治等對治二障也）

寂靜く（求所證得趣文[illegible]有先集緣并界等無住槃也）等流く（三）（已得寂靜く者由此增上故發起勝品神通等世出世共不共功德也）

同論第四云不善有十二種一自性不善二相屬くく

源三位頼政

聖教切―薄墨切

源三位頼政

式子内親王

なかむれは衣てすゝしひさかたの
あまの河らのあきのゆふくれ

家に百首哥よみ侍けるに
入道前関白太政大臣

いかはかり身にしみぬらむたなはたの
つまゝつよひのあまのかは風

後京極良経公

新古今集　才四　秋上

やましき秋ハくれぬと思ふらし
まきの葉ことにおけるあさしも
くれてゆくはつきのかけにをくりみハ
かりとゆくのしなすてあらけり

世尊寺行能

ぬるとも梅にや花をおるらん
の御袖にあふはくれしかり
雨ゆうつゝ迄寿女の事よ遠かも
つまはりえりぬれ世代にとまら
あらさぬをすれかくとやゝめきん

今川氏實息範以 [illegible]

秋の夜も名のみなりけりあふといへは事そ
ともなくあけぬるものを
凡河内みつね
長しとも思ひそはてぬ昔よりあふ人からの秋
のよなれは
よみ人しらす
しのゝめのほからゝゝとあけゆけはおのかき
ぬゝなるそかなしき
藤原国経朝臣

家隆卿

家隆卿

四半切

古今集 才十三 恋三

はるゝしはりまてあさちさくらさ
とれねからのゝいほにかくれは

藤原義孝

ゆきをこそそれなのあめのみなさへて
ふりやいはれはるいそきしつけり

月輪のこいふところにまかりし元輔
東ゑふかしきこゝろ遊のふらちあ
かもとてあらんく見侍ける

大中臣能宣朝臣

弘誓院教家云

ミてかれハなるよ似しまれハ女え
花川のましける

讀人不知

秋やよ乃さのしみたはまをて
やまくれしこまるひまれくさのか

成資朝臣やまとのかみにて似ける
とき物いはゝ似のまてまかりて年
るをめそる女ち家まゝめて似き
るくれ隠まられさとて似せる

あれはのめくとゝ隠さとあれ似とお
あたる女月のうゝしまる

嚴覺法師

秋風の露きえぬのこゝろにすみまの
かうれ思ひを我をなきのさめる綿ん

藤原國よ雨のきれ隠ふまもて京
なるありのまける　大江通國朝臣

このこゝろもさゝりなまも我こしも様おもれ
を花まれもるのゝ和とに花まれん

[illegible]四条高倉[illegible]

かくに
かりくらけへ
てにもせうき
へそゆい
こひそめて
しす

江近御殿向書留候

うらみさりこそなれいまそのれなくし
ほとゝれけしけくおもひたまへちける

題不知　　　　斎宮女御

むらさきしゝやかわらめろみちあはれ
いけにこそいちきものゝゆふつけ

源為善朝臣

かちえしかはまなほねまりくいまちいつるゆふつくよさき
わかりゝりなゆつりやまのはし

長暦二年内裏の哥合によくしのちれ

藤原為氏卿

四半切

後拾遺集 外二 春下

人師勝出聲聞緣覺上大
毗盧遮那經云菩提心爲因
大悲爲根本方便爲究竟
况受此戒理行雙脩无不
尅證㝡上慧地欲得諸佛

後書經文

此とかりし色ハ見とも有とも見へし
さゝ虫の音ニてけれ秋風ハこと縁と云なる（虫音）
うちならしとハ秋もしらる秋銀鈴也
音の有ものゝ道をも云ハ山のそみく後ハ秋なれ
風をあらし方にて是見色ハ哀なれ
今りにきこゑて新ひらへ志よりときき
さくりかへしてゆるさてなり

後京極摂政太政大臣

み吉野ハ山もかすみて白雪のふりにし里ニ春ハ来にけり

是ハ新古今の巻頭哥ニて候能ニ可有へし

東野列

竹誓　唐竹二首　宣元

呉竹乃ひてきてあそふ

花誓乃ことまつや　同

聞鶴

旅夜思ひつされ聞てしと

る鳴きよこ枕の中はれかし

旅宿言葉

古りとやい掻揚乃葦まくら

いとしひきすめ昔のうらし浦

武藏乃野辺のはるとは海ゆき

ゆきつゝへしゝかむ云郭　今度元

[illegible]

安長

みあをうすまへのあそ橋
祖ゝにもわたらは心を弱めん
こひもそぬきを猿のさゝ池
見すは花おりて折て桜え
露ゆふくらあを（をきと）折一ゝまきらん
若波あらる唐土せは波ゆかむ上
うらは難波を行こよすみえ
つきくる人をこそてゐゝ

元文年作候人々

きやのみる月のすゑとの夕のすゝ
ちろかたもなくてあめもすゝし
山かるれ良ミれもて比縄ハ
はくゝやすらふ島れ一道
江さしほてくすゞし庭猶の花にうつれ
ゆふ雨のさわ志きを記郭ら

通寺町写之[illegible]

定隆雅

曉とつけの枕をそはたてゝきくもかなしき鐘のおとかな

百首哥に　　　式子内親王

定
雅

あるほとかあるにもあらぬうちになほ[illegible]

[illegible]ひからちけせ人は[illegible]

和泉式部

隆

かくはかりうきをしのひてなからへはこれよりまさるものもこそおもへ

題不知

定

そ[illegible]

やまのく[illegible]

[illegible]のまゝはなかりけり

大僧正行慶

山門法印慈深

一筆者　後光明峯寺家経公子息

わしもす代のみしきあてと
かくしつる桜ののはなと
はなさけりを
へつ色とかりけり

幸仁親王

二月許みて雪のすこし降れるみ
侍りけるまつのゆきのむらきえし
天暦御時の屏風に十二月雪ふるところ
まあるか　清原元輔
わかやとにふりしくゆきはたゝつゝまた
としこえぬまのたるきこそみれ
雪ふれは川とあれ大堰河のゐちん
はなしまふ　入道前太政大臣
おれしくろゆき川りゝらたとおりへし
きみかゆきいまつるかなし

蕉布坊浄辨

後拾遺集　卯六冬

蕉布坊浄辨

かきくらすふる山白雪くえぬす

賀茂のいつきおりゐてのち

まつりのみあれの日人のあふひ

をたてまつりて侍けるにか

きつけられて侍る

式子内親王

神山のふもとになれしあふひくさ

ひきわかれてもとしそへにける

仁和のみかとのみこにて親王の時

おそくまゐりけれはよみける

權少僧都

ふるきすかたのさしき古葉のしと

慈鎮　六半切

故郷花といふ心をよみ侍ける

よみ人しらす

さゝなみやしかのみやこはあれにしを
むかしなからのやまさくらかな

日吉社哥合とて人々よみ侍ける
ちるはなをよめる

祝部成仲

さゝなみやしかの花そのみるたひに
むかしの人のこゝろをそしる

花哥とてよめる

賀茂成保

ねつさゝのゝらのそのさくらさきにけり
こえてよりくるしかの川なみ

慈鎮　六手物

慈鎮和尚

ゆきわけてみにいり君をこふらし
あはれわかきれあら木
うらみはいさぬ神しゆかぬ地代
恋すらむとし君をこそ思
かこりふあはれとおもひ様
難しき那りける人も悔し

其角翁句　元長

きくうとましくおほえかゝ人てもおつら
しなきまなのむしをかれしきねたいのぬ（うへり）
しれかるかふいのみつくすあふ見え
やまさとはふゆそさひしさまさりけるかね
あし ゆしうとききこえはへり きいよわ
きの給て みえすいの給ふすいゝき
なまめいてもしさつわし給へあ
こゝろころけにて ちらくみてきふ

於東光院

一　遅桜ハ　おくれて咲　若き芽たく　まだ咲あ[illegible]

を[illegible]れて咲[illegible]あまし[illegible]しや若き芽をかせしら[illegible]

一　余桜ハ　ちりて　花残れし　花の錦ちらさぬ[illegible]

一　葉桜ハ　花ちり後　若の芽　一面にしげりつゝある

かさう様　芽をおつし九人

若の芽ともに花盛につきこそは芽も若いつ芽一面様なら

[illegible]いりかゝきは　あれ[illegible]つきかまゝの花盛の[illegible]

一 條々之書

戀すとてしん修縁法師に

年の花をまちえてめつる事のよ

なきに人の命をなからへけるらん哉

元来愛蔵の流のみえし山庵にて

旅宿戀といふ事を

侘しらぬ都をこひわたるかな

ミしにし人のえかれんかへるさの月

澄泉院長家にてよみける百首

以小写院

尒時五百万億諸梵天王與宮殿俱各以衣裓盛諸天華共詣北方推尋是相見大通智勝如來處于道場菩提樹下坐師子座諸天龍王乾闥婆緊那羅摩睺羅伽人非人等恭敬圍遶及見十六王子請佛轉法輪時諸梵天王頭面礼佛遶百千帀即以天華而散佛上所散之華如須弥山并以供養佛菩提樹華供養已各以宮殿奉上彼佛而作是言唯見哀愍饒益我等所獻宮殿願垂納處尒時諸梵天王即於佛前一心同聲以偈頌曰

世尊甚難見　破諸煩惱者　過百三十劫　今乃得一見
諸飢渴衆生　以法雨充滿　昔所未曾覩　無量智慧者
如優曇波羅　今日乃值遇　我等諸宮殿　蒙光故嚴飾
世尊大慈悲　唯願垂納受

尒時諸梵天王偈讚佛已各作是言唯願世

无所畏四无礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法以八勝處九次苐定十遍處无二爲方便无生爲方便无所得爲方便迴向一切智智脩習佛十力四无所畏四无礙解大慈大悲大喜大捨十八佛不共法慶喜當知以八解脫无二爲方便无生爲方便无所得爲方便迴向一切智智脩習无忘失法恒住捨性以八勝處九次苐定十遍處无二爲方便无生爲方便无所得爲方便迴向一切智智脩習无忘失法恒住捨性

可得色聲香味處於觸處无所有不可得觸
處性空故觸處於觸處无所有不可得觸處
於色聲香味處无所有不可得色聲香味觸
處於法處无所有不可得法處性空故法處
於法處无所有不可得法處於色聲香味觸
處无所有不可得舍利子我於如是諸法以
一切種一切處一切時求菩薩摩訶薩尚无
所有不可得何以故自性空故

大般若波羅蜜多經卷第六十四

神崎郡住光誉書元禄七年卯月廿一日

筆大賀生年二十伍才

手も無わかれの言葉は白河山尾之鏡のまへ妙書
須磨のうらやく人のさひしく給ふ爰にあかしの月
むらさきみつき嵐の下すゝしさを見るに絶ゆる人
きのふはかうへ梅人ぞ秋の色に染る柞の杜の杜（下露）
玉ゆらの露も涙もとゝまらすなき人こふる宿の秋風
いはくかなしと根は宿とふ夜半も見えぬ人のとふ嵐
えね人をまつとは浦の千鳥鳴やまさりぬ月かさねみね
家隆朝臣
ゆくらも家のうへの白雲のぬれてつしなれこそのまきの風

徹書記

應豊内大臣

うれしふこゝろと海かとみえしとゝも
おもしくとれしハ世中やかしさし

題しらす　　丹波高長朝臣

あはれなけきけるかなりけれ
うきハうしこの世ハしもの

平経盛朝臣

すてやらぬ心ハつらしにやいつそさむ
まよふ世乃夢さハりかくつらし

秋きりものきうとく見ゆらん

鶯（うくいも）乃こゝなすら祢よ　うら祢てしも

とりあつめぬる積もり

こちふけはさそ花ちまてゐあらて

風ハ山吹とゑてさりをは

散まへ乃家こえて来し　此木者比まや

さそみ菊乃あひか　露ハやこゝそ風の行

夕や花やま清いてぬる月影哉つ

ねゆきのさ風も　清ましをもりまきれ

ゆるしさ　見ん所あつかひて

身をうしとおもふにきえぬものなれは
かくてもへぬる世にこそありけれ

内侍ノスケ 撰作 古今ニ一首
典侍藤原直子朝臣
月云 直子典侍正四位下 貞観延喜歌人

あまのかるもにすむむしのわれからと
ねをこそなかめ世をはうらみし

つよ

はてわ心ころ、ねろもあし夜ゐあ
あらちゆの月もゝぬかさこそか
なくゝまわすれてまねる

相模

新十三
はらえこハにすふハをのつゝふしゝきの
えハしもこわねこゝろなきをゝり
右大将家通

帚木はゝきゝ　第三句

後十六
ゆふさこゝりあまちすとあしひにこきての
ありとハわれハかくれなりけり
馬内侍

新十一
そのはらやふせやにおふるはゝきゝの
ありとはみえてあはぬきみかな
坂上是則

第句

後九
しなのなるそのはらにこそあらねとも
我はゝきゝといまはたのまむ
平正家

もみちはのなかれさりせは龍田河
水の秋をはたれかしらまし

志かの山こえにてよめる
はるみちのつら紀
山河にかせのかけたるしからみは
なかれもあへぬもみちなりけり

いけのほとりにてもみちのちるを
よめる　みつね
風ふけはおつるもみちはみつきよみ
ちらぬかけさへそこにみえつゝ

あらかなきつれそてのしく涙
題しらす　権僧正慈仙
ねまてかすひまいしそなけき窓しらも
すねもろあめのはまぬおもひく
大江廣房
ことの葉乃うつろふあきのしくれゐさく
まろすひとつ乃袖そぬれける
源親長朝臣
月くさ乃たれにうつしもおきつるて乃

左近

月ころうへゝ侍こそたつふる宮のはかなさわはえ
深みあきの紅葉十月のゐはゆゝ夜を
おりてなかり雲はれし

よみ人しらす

冬わしと春のかせふれなかれしへまゝるにか
女のこしの車あのそおやのもゆる袖
わろきて給へる雪の帰りて給はれ
御まへのしのつま車つゝるきそこそ
くらへてつゝしゝる
もとすけの朝臣

皇太后宮大夫俊成
月の宇も夜の瀬わたる泉川（いはの）
ぬすしミ川也左てれ見
従三位頼政
夜比秋中ま左てりまくゝやをれ中の杉ま左て
さゝめとくらし月そく毎子き
従三位有家
まるゝし也おもひへま左てむ
やゝく毎きれみしの夜の月（とめしくるを）
寂蓮
くゝ以くゝ遠ゝ母の母ゝゝたを初りゝゝ
夕やみ見をしきゝの夜の月
数ま大へとゝゝ多ける
前関白太政大臣

このたひはまけにけりすみのところ〱いて〱と
およひをかゝめてとをはたみそよそなと
かそふるさまいよのゆのゆけたもたと〱し
かるましうみゆすこししなおくれたり
たとしへなくくちおほひてさやかにもみ
せねとめをしつけたまへれはをのつから

舟中浪上一生之歡會是同（以言 遊女序）

（詠[illegible]）

倭琴緩調臨潭月唐櫓高推入水煙（行女[illegible] 順）

しら波のよするなきさに世をすくす
あまの子なれはやともさためす　海人詠

老人

聞かつハ最老しいかまてからのこ
しく古き詞をまねひ侍へたく
くねり悔りせく情探をさ
あしき事をそしねつけり
すしはしくこゝの事とも
梅てろつそけし道の之風義
うけすめ見思くしもをれく

月よりし秋くにこそはつきやしめ
うそふのゝころまことすとなし
きこえますかねやへもいりしこともしはちき
わかしゝゆたよしもなくこし
家のこともなにかこときこゆるを見
風をさけつときこえをそへ給
あれこえしいもみてし山の川乃
つきかはさきたるやまとなそしこ
川のふかうなるは不かりにすやましあ乃

もらしおなめしまはなきにかうしなは

くらゐもやと思ひなりけれと

やうやうゑやくこと男ありといこつきあ

[illegible]世のさき[illegible]湯ものかたれ

かりなきぬなもとめりしかりのなか

きくならしをそこなれはしのからかく筆

かはりけり法乃車るのしれし

時はねこもろきりえあそことを省

わかゆきあうめよまひぬしい

こう乃あきところのうろ右のわ政いとら

まいる[illegible]

[illegible]

七月廿六日　[illegible]

[illegible]

九条[illegible]

[illegible]

[illegible]

よ底ろ寒く山のこすゑのまくらうそ　安隆

こけのころもやよさむなるらん

物ことに我よのまよひ夢さめて　宗祇

こゝろの月にそふかきこもり

すむ人もすくなきみやまとなりし　経信

ありあけの月みゆるこゝろやうとて

まことあるくさるは庵にすみなれて

こけのたもとにかよふ浦風　肖柏

かくはかりへかたくミゆるよのなかに
うらやましくもすめる月かな

慶賀

釵佩暁趍雙鳳闕　煙波夜宿一漁舩

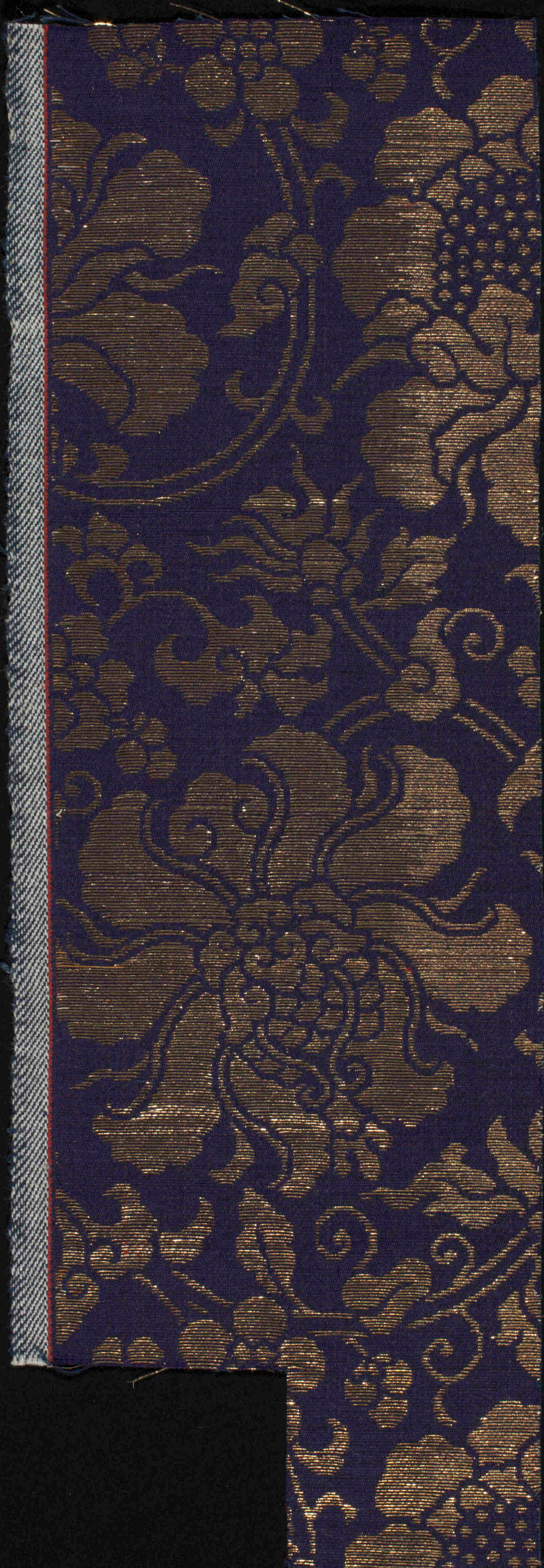
錢塘

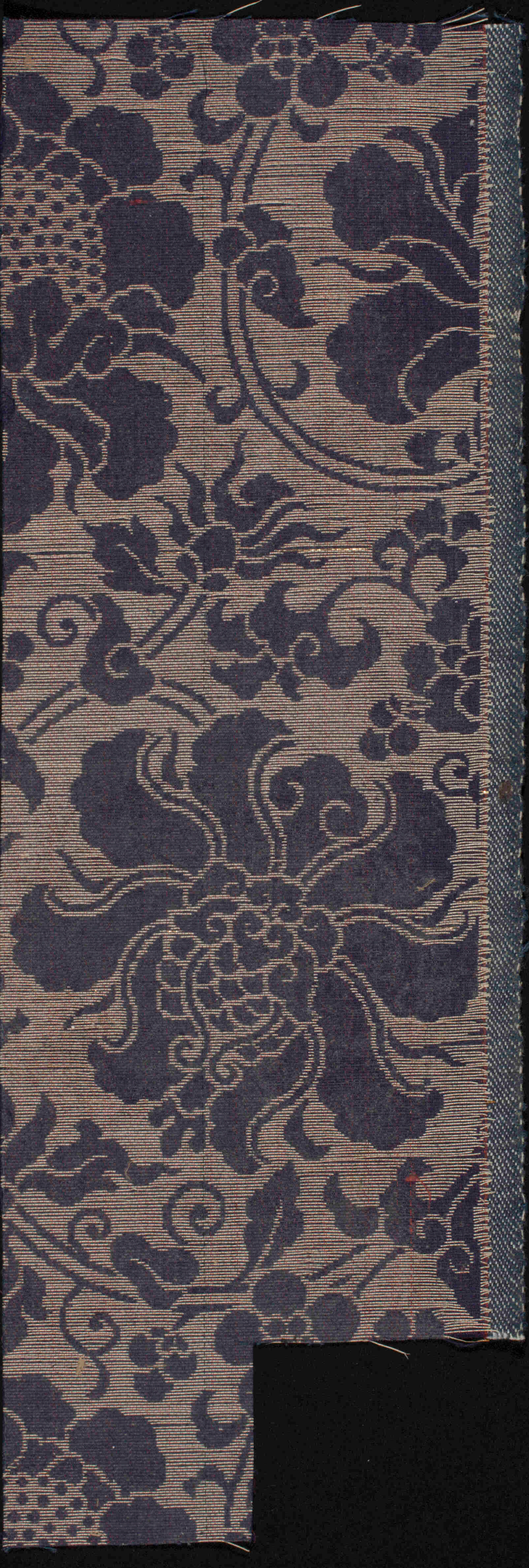
錢唐去國三千里　一道風光任意着

想得江南諸父老　因君報健子孫多

佳人盡餝於晨粧　魏宮鐘動
遊子猶行於殘月　函谷鷄鳴

あまくものよそにも人のなりゆくかさすかにめにはみゆるもの
から
なりひらの朝臣
ゆきかへりそらにのみしてふることはわかゐる山のかせはやみなり
景式王
からころもなれは身にこそ
まつはれめかけてのみやはこひむとおもひし
とものり
秋かせは身をわけてしもふかなくに人のこゝろのそらになるらん
源宗于朝臣
つれもなくなりゆく人のことのはそ秋よりさきのもみちなりける





ゑ家の哥とも撰へき由仰下されける打あはせ
さ清作和義朝臣家隆納言
此撰の集やまたけしきの夕暮の哥を撰ふ也
寂蓮院贈左大臣家の納言
二条院讃岐三位に山家なとを撰へらる下けり
聖護院宮家撰して備へけり
部のしるしとかゝれ
志かりぬる未れ下にけ風にて山深き家の撰哥き
二条清輔朝臣家の十首
よしありけれはこれ君か撰ふ哥を寄まゐらせしき

[illegible]右衛門

源重之

むかしみしいもかゝきねはあれにけり
ちはなましりのすみれのみして

山邊赤人

あつさゆみはるやまちかくいゑゐして
たえすきゝつるうくひすのこゑ

よみ人しらす

むかしのこしかりなきてうつろふくすれ
ちねしわかまゝにあなゆきもしみゑ

あつまのかたより京へまうてくとて
みちにてよめる
おと見子のましなすりつ
むまそん

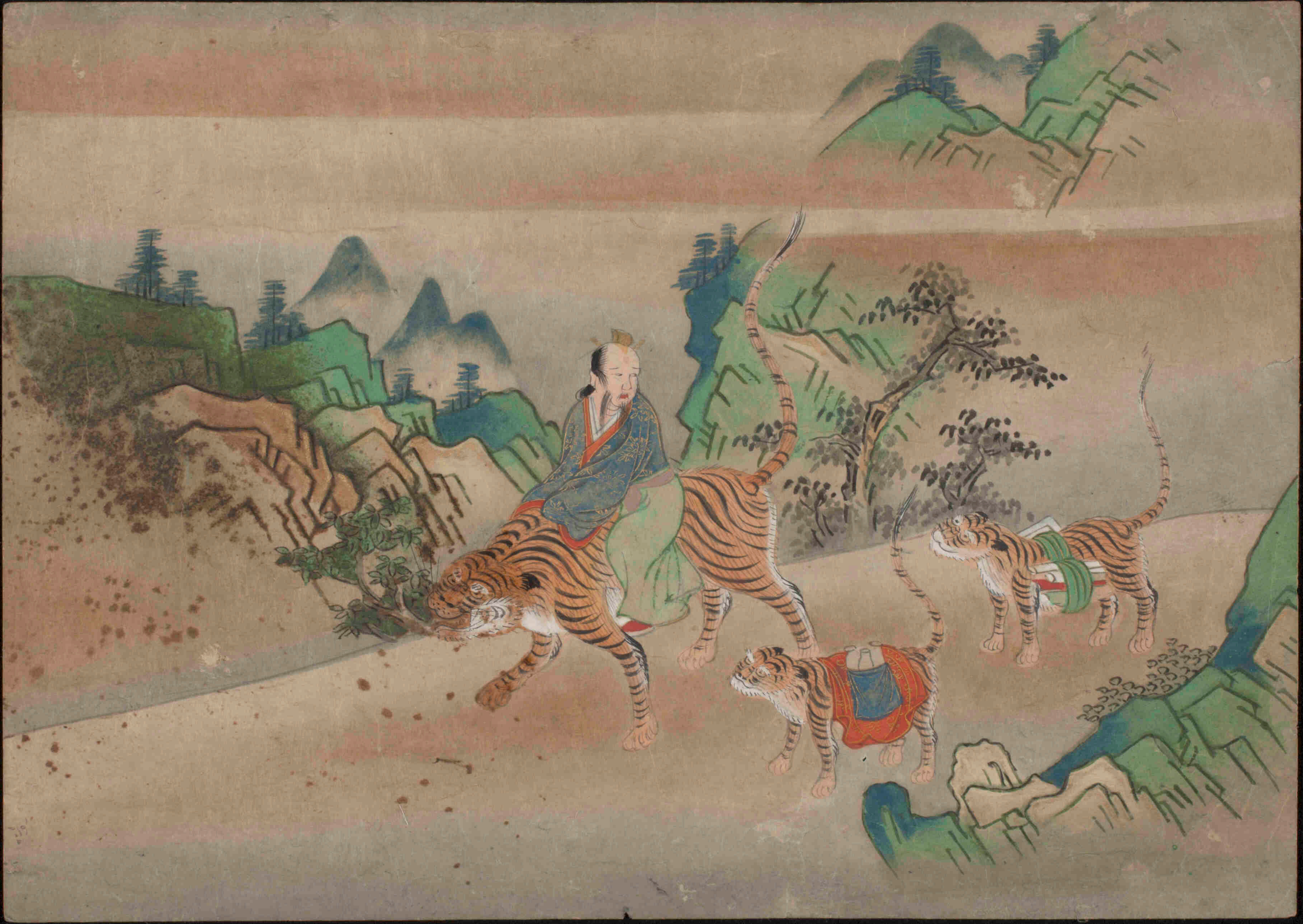
やまかくすはるのかすみそうらめしき
いつれみやこのさか井なるらん

こしのくにへまかりける時しらやま
をみてよめる　　みつね

みえ山花ときいそひさしかれ
春のかやまゝ年ハ負ゝうと
しなのゝ國名所
きそ
はのりさそゑゆをみのあゝ風よ
こすゑもあしわちとつらみか

題しらす　　曽祢好忠
花ちりしにはのこのはもしけりあひて
あまてる月のかけそまれなる
らのはくとうしそしひとのまちしと
くさはつけてこのまかれ
藤原元真
なつ草ハしけりにけりなたまほこの
道ゆきゝ人もむすふはかりに
匡衡朝臣
なつくさハしけりにけれとほとゝきす
なとわかやとにひとこゑもせぬ
柿本人丸

祝神ゝゝ食負各音[illegible]
以命肝代職云ゝ[illegible]
而代云ゝ是根源也撰甲[illegible]
重識在可撰云ゝ[illegible]神之
出諸友之御[illegible]古例號
著通中納言[illegible]又日
執[illegible]化[illegible]
年已達廿又[illegible]人[illegible]
弥又[illegible]朝諸[illegible]着也
但[illegible]万道交[illegible]精
握[illegible]也[illegible]猶常[illegible]
非[illegible]代[illegible]可[illegible]
官僧廿[illegible]也[illegible]
人從者[illegible]神但[illegible]
操[illegible]祿[illegible]論[illegible]
[illegible]回[illegible]也[illegible]
諸義[illegible]論[illegible]
[illegible]嚴[illegible]早[illegible]
[illegible]
任[illegible]任[illegible]
[illegible]入[illegible]入

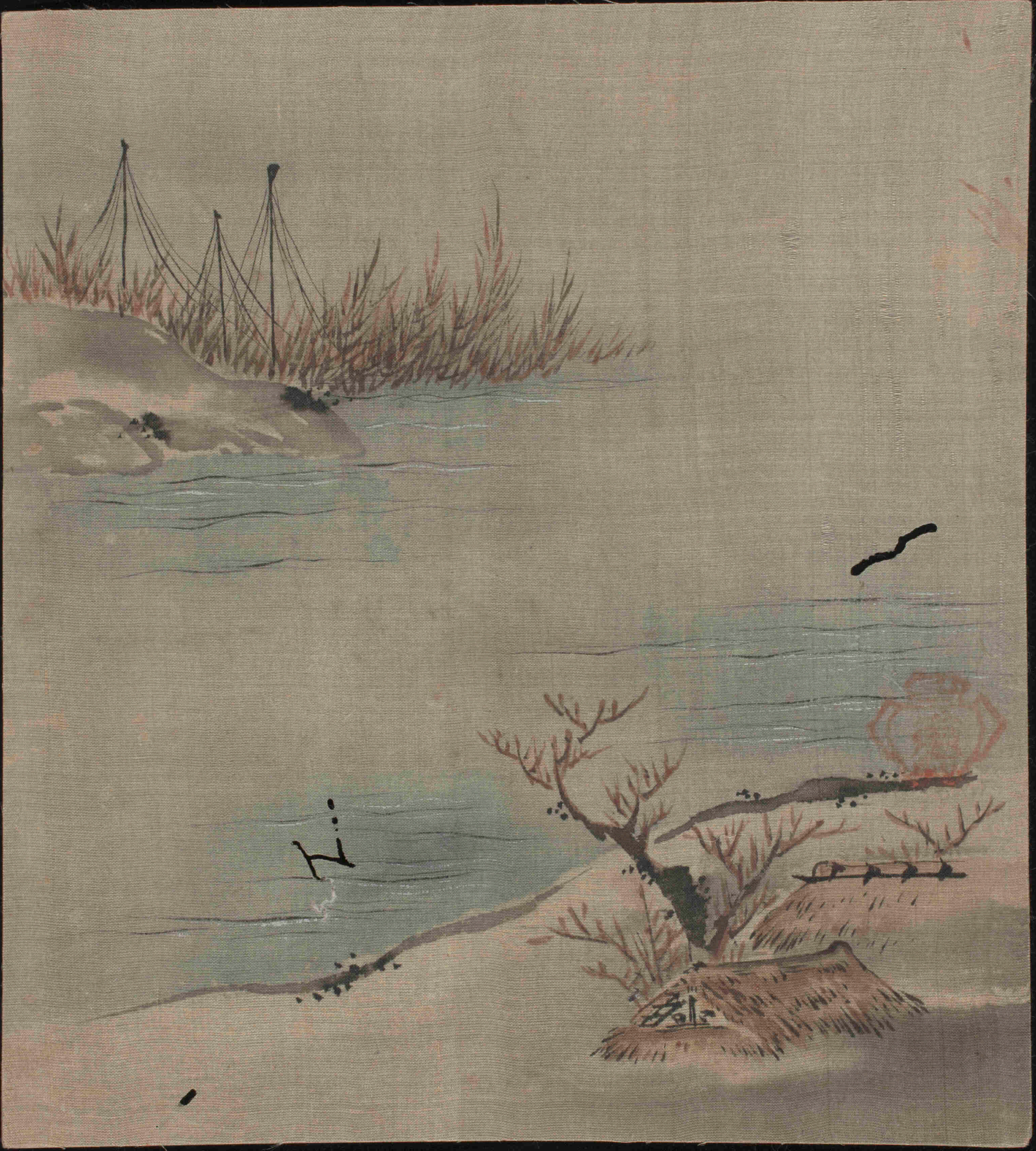


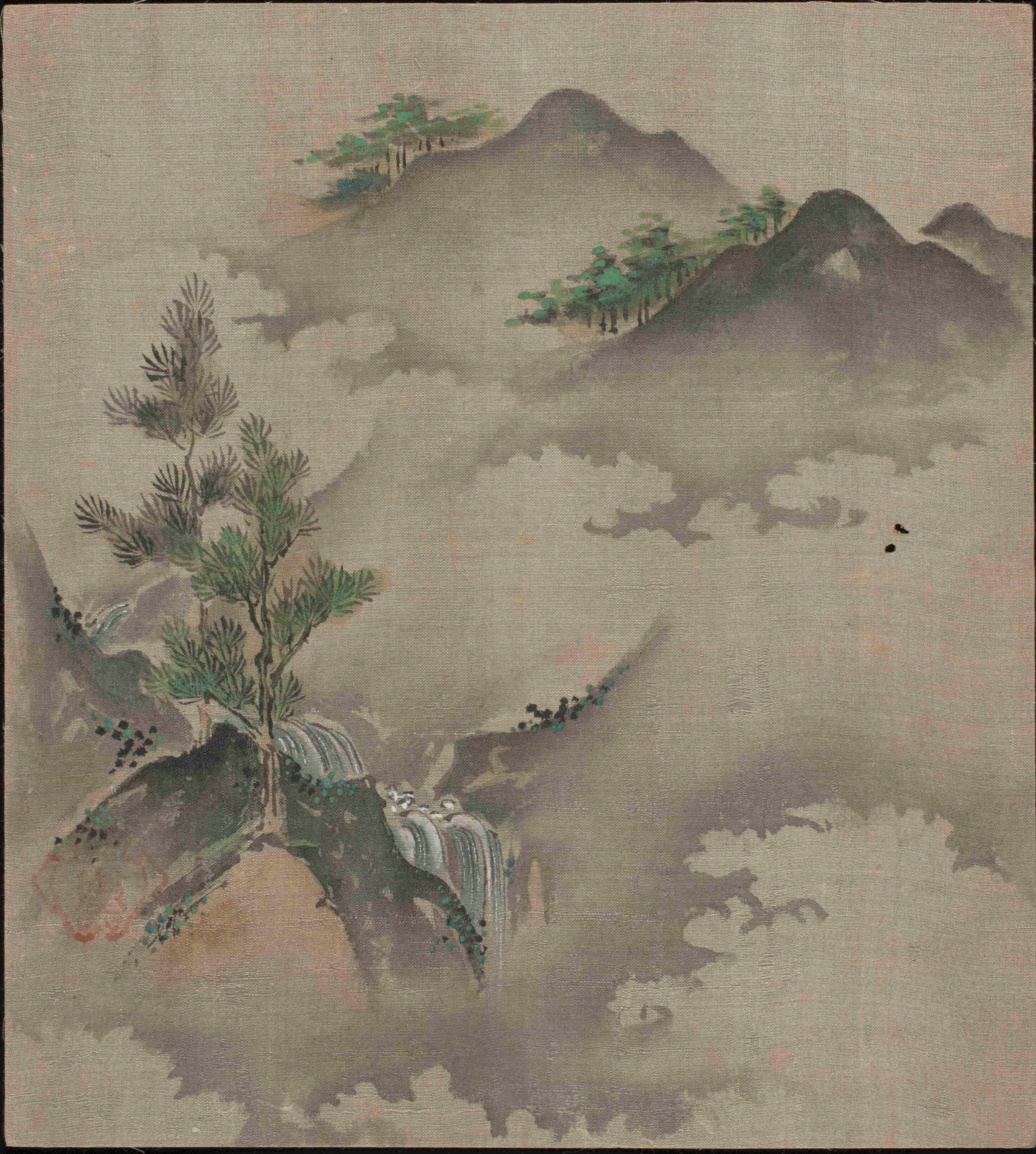
テイシヱン
鄭思遠

九三

莊伯徽（リウハクヒ）

廿五





六月十二日書状[illegible]

十六日[illegible]

大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

伊[illegible]

[illegible]

中[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

可まいらせ候　何[illegible]

[illegible]之言字[illegible]

[illegible]候　[illegible]

[illegible]細川[illegible]

細川大[illegible]

[illegible]川[illegible]もし　[illegible]坂川[illegible]

大坂[illegible]

[illegible]信用[illegible]

[illegible]

[illegible]

細川大[illegible]知人[illegible]

大坂[illegible]

細川大[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]候　○

伊勢[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

細川大炊殿へ人を以

申入候處遠慮申候由

細川越中守殿へ申遣候て

[illegible]

じ 候もまて遠慮して候

此度仕候由ニて ○

伊勢守へ遣可申 甘糟まで

七ヶ条 [illegible]

[illegible]

[illegible] 正月廿七日

[illegible]

貞好

[illegible]

[illegible]

新造 [illegible] 以四 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]